

1 はじめに

第 39 回長野市中学生友好訪中団報告

団長 長野市立広徳中学校長 宮尾 昭広

令和 6 年 10 月 22 日(火)～10 月 28 日(月)、第 39 回長野市中学生友好訪中団が友好都市である中国石家庄市及び北京を訪れました。参加した 10 名の中学生にとっては、石家庄市の中学生との交流をはじめ、文化遺産や観光施設を見学し、訪中団の目的である、「両都市間の友好親善と次世代を担う若い生徒たちが国際社会で活躍できるよう国際感覚の醸成と国際理解の促進」という有意義な訪中となりました。私自身にとっても、古より栄え、日本が学び続けてきた中国を訪問すること、自分の目で今の中国を見て、感じる事ができる貴重な機会になりました。

【10 月 22 日(火)】

長野駅オリンピックエンブレム前に集まった訪中団(団員 10 名 引率 2 名)は 8 時 45 分、出発式を行いました。出発式では、佐久間学校教育課長をはじめ長野市教育委員会の皆様、国際交流コーナーの皆様、佐藤裕美校長会長、各校の校長先生・教頭先生、保護者の皆様、そして犀陵中 2 年 2 組の皆様に見守られる中、佐久間学校教育課長から温かい激励の言葉を頂き、新幹線に乗り込みました。

11 時 30 分に羽田空港に到着しましたが、予想以上の人ですべての手続きが終わりイミグレ通過できたのは、13 時 10 分でした。少し羽田空港で飛行機の中での菓子や飲み物を買いたかったのですが、時間もほとんどなく 13 時 30 分に飛行機に乗り込み 14 時に定刻通り出発しました。

北京空港には、現地時間 15 時 40 分に到着しましたが、混雑や入国カード記入の苦戦もあり、現地スタッフの馬さん・尹さんと会えたのは 18 時でした。荷物を受け取る間に電車に乗ること(空港内で電車をのること)に驚く生徒もいました。

北京空港からバスで 2 時間ほど移動しました、中国の交通事情か、渋滞があったり、激しい運転もあつたりでバスよいる生徒もいました。

21 時の新幹線に乗り、ホテルに着いたのは 22 時 30 分でした。

夜遅くにも関わらず、優しく出迎えてくれた石家庄市外事弁公室の方々が優しい笑顔で温かく迎えてくれました。本当に感謝です。



【10 月 23 日(水)】

石家庄市の最初の訪問地は第 28 中学校でした。

28 中学校は小学校から高校までの小中高一貫校です。生徒数は 7000 人です。石家荘市では最も優秀な学校で、教員を育てる役を担っている学校でもあります。28 中学校に入学するには、28 中学校の学区内に住み必要があるため、28 中学校の周りのマンション等の不動産物件は高くなっているそうです。

9時に私たちのバスが到着すると、20 名程度の生徒と 10 名の職員が既に整列し待っていてくれました。グラウンドに通され、チアリーディング部の「チアダンス」の歓迎を受けた後に、学校記念堂で学校の歴史の説明を受けました。28 中学校は 1978 年に開校したこと、数々の賞状をいただいたこと、様々な優秀な校長・教員の説明、優秀な生徒（入試の点で高い生徒）の説明がありました。また、28 中学校は、二人の校長がいました。一人は教育を一人は安全を管理しているそうです。校長の下に 6 名の教頭、そして校長の上に「書記」がおり、学校のすべてを統括しているようです。校長は、教諭、副教頭そして校長になるようで、書記が校長を任命するシステムになっています。「書記」は、共産党が任命するという仕組みになっているそうです。

学校の歴史を学んだあと、英語の授業を見学しました。私たちは教室に入ると、全員が立って出迎えをしてくれました。一人の中国人の先生が前に立って、授業をリードするスタイルで、二人の生徒の「石家荘市のおすすめ」のプレゼンを見ました。発音、声の大きさも素晴らしく、また、教師の質問にも全員で大きな声で答えていました。一つの教室には 55 名の生徒がおり、机は日本のものより小さく、教室も大変シンプルでした。



その後、文化体験を行いました。卵の殻に「福」の文字を彫る体験をしました。日本の生徒一人一人に中国の生徒がついて、色々とお教えました。中国の生徒は決して英語が喋れるというわけではありませんが、自分の使える英語、身振りだけで一生懸命優しくお教えました。その後、扇子に絵を描く体験をしました。これも、中国の生徒が一生懸命お教えました。福の文字を彫った卵と扇子はお土産として



いただきました。その後、グラウンドに出て体育の体験をしました。最後は餃子を作りました。これも、中国の生徒が見本を見せ、やり方を説明してくれました。その餃子を、食堂で昼食としていただきました。どの体験も、とても丁寧に親切に押しいただきました。中には電話番号の交換をしてほしいと、自分の電話番号をメモして渡してくれた生徒もいました。

生徒が体験している間、二人の校長先生たちと色々な話をしました。学校や生徒をもっともっと良くしたいと考えており、日本の校長と同じだなと感じました。

午後は、中国の伝統的な衣装である感服を体験しました。唐の時代の服に髪型、化粧をして、正定の臨濟寺を観光しました。夕食は、外事弁公室主任歓迎会に招待いただき、北京ダックをはじめ、おいしい中華料理をいただきました。

【10月24日(木)】

9時から河北博物館にいきました。この博物館には三国志の劉備の先祖と言われる中山靖王・劉勝の墓「満城漢墓」の出土品があります。今から2000年前、漢の時代のものだそうです。出土品の目玉は、



劉勝とその妻の遺体を包んだ「金縷玉衣」・「信長」宮灯です。まずはその玉衣の説明をうけました。訪中団の生徒の中にはメモを取ったり、時には質問をしたりする生徒がいました。次に「長信」宮灯を見学、漢の時代の青銅に金メッキされた照明器具です。膝について照明器具を持つ若い宮女のデザインで、全体に金メッキが施されている。照明用トレイの明かり窓は回転させることができ、明かり窓を回転させることで明るさや照明の方向を調整することができます。宮女の体は空洞になっているため、煙や灰が右肩から体内に流れていき、室内の空気が汚れることはありません。すると、ろうそくってそんなに匂いとか煙でないのになんで空気をきれいにしようと思ったの?という質問が生徒からありました。「昔のろうそくは、動物の

油でつくっているため、今のろうそくとは違い、煙やにおいがつよかったです」と案内の学芸員の方が押してくれました。この質問からも生徒が興味をもって聞いていたことがわかります。

河北博物館の後は、生徒たちが待ちに待ったお買い物の時間です。大きなスーパーマーケット(生徒の印象だと高島屋のデパ地下)に行ってお土産を買いました。生徒の人気はオレオやお茶でした。家族やクラスの友達、担任や職員室(校長先生や教頭先生の名前もでてきていました)に買っていくんだと、現地スタッフの力や仲間と相談しながらお土産を決めていきました。

午後は、正定県の卓球訓練基地を視察しました。ここはよく中国のナショナルチームが練習をしたり、日本選手が練習したりする場所でもあります。小学生・中学生・高校生が寄宿しながら卓球に打ち込んでいます。午前中4時間勉強をし、午後3時間夜2時間練習しているそうです。私たちも一緒に卓球をさせていただきました。



その後、友好の鐘を見学しました。夜は石家荘市の副秘書長表敬訪問と歓迎会です。歓迎会では、副秘書長から「日本はなぜサッカーがあんなに強くなったんだ?」ととてもサッカーに興味があるようで、J1~J3 長野パルセイロのことまで聞かれました。中国では今サッカーが大人気だそうです。前回のワールドカップ予選に日本と戦い0-7で負けて、衝撃を受けたそうです。中国も日本も、自分のスポーツを観戦したり、応援したり、そして自国のチームが勝てばうれしいし、負ければ悲しい。自国のスポーツ選手、自国を愛する気持ちはまさに同じだと感じました。

【10月25日(金)】

今日は、午前中 石家荘市動物園にいきました。200万km²という大きな面積をもつこの動物園には、パンダがいました。パンダ以外にも、フラミンゴ・クロヒヨウ・ホワイトタイガー・日本から送られたピンパンジーの子孫、マンドリル、ホワイトウルフ、シベリアトラ、そして長野市民にはおなじみレッサーパンダがいました。インコが手に乗って餌を食べる体験もできました。



午後は、北京への移動です。石家荘市駅では、大使館からの要請で、鉄道警察が警備を下さっていました。特別な待合室で待たせてもらったり、一般の方が長い列を作っている中他の入り口からプラットフォームに入れていただいたりと配慮していただきました。昨日の友好の鐘視察でも公安が複数名そば



にいてくださっていました。色々な方の配慮があり、安全な旅行をさせていただいているんだと感じました。しかし、新幹線に乗るために、外国人はパスポート、荷物、ボディチェックという三つのチェックを受ける必要がありました。スーツケースの中に虫よけスプレーが入っていて、スーツケースを開けられ没収されるという憂き目にあった団員がいました。液体に関しては空港より厳しいと感じました。

北京につくとすぐに王府井視察です。高級店ばかりが並ぶ街ですが、ビルの中にはスーパーマーケットのようなリーズナブルなお店もありました。ここで私にハプニングがありました。トイレに買ったお土産を忘れてきてしまったのです。どこに置いてきたのかわからず、立ち寄った店舗を馬さんと探しました。あるお店では、すぐにビデオカメラまで確認していただき、そのお店ではお土産をもって出てきた自分の姿がありました。このビデオのおかげで、忘れてきた場所が特定できました。ビデオカメラを確認してくれる北京の方の優しさに触れることができました。



【10月26日(土)】

午前中は、万里の長城の視察でした。昨日より北京駅西口近くのホテルに宿泊していますが、そのホテルから高速道路で1時間半ほど北西に八達嶺という万里の長城の中でも保存状態が良く、実際に万里の長城を歩くことができる場所があります。そこを視察しました。

万里の長城は中国のシンボルであり、知らない中学生はいません。訪中団もワクワクしているようでした。万里の長城につくと、20年前に来た時大きく変わっていました。たくさんの店舗が並び、トイレもきれ

いになり、ゴンドラまで整備されていました。しかし、残念、霧がかかっており遠くまで見る事ができませんでした。

万里の長城は、大変急坂です。一つの櫓まで歩くと息が切れます。それでも生徒たちは、次の櫓まで歩きたいといい、前に前に進みます。「時間の関係で帰るよ」と伝えても、もう一つだけ行きたいと言って聞きません。万里の長城を歩いていると、「次の櫓までいきたい」とか「次の景色も見たい」というように思うので不思議です。

お昼は、長城付近のハンバーガーショップで昼食です。ハンバーガーの中にパイナップルが入っており、生徒は大変おいしそうに食べていました。



午後は、頤和園を見学しました。頤和園は、中国の首都・北京から北西へ約 15km の位置にある、総面積約 290ha も誇る広大な庭園。ここは 12 世紀の元朝時代に小規模の離宮が建造されましたが、当時は宮廷で使用する貯水池として作られたもの。その後、1750 年に清朝の第 6 代皇帝・乾隆帝によって庭園が整備され、「清漪園」と呼ばれるように。ここには中国の名だたる庭園や景観、建築物などを取り入れ、東アジアの庭園建設に大きな影響を与えました。

しかし、1850 年に第二次アヘン戦争時に英仏の連合軍によって破壊されてしまいます。その後、1886 年に当時政権を握っていた西太后によって莫大な予算を使用し、復元され、頤和園と改称しました。西太后はここに政務室を作り、豪華絢爛な庭園を公園として開放しています。頤和園も 2021 年大工事がなされ、観光名所となりました。そのためか、観光客で前に進めない状態でした。

そのためか、頤和園そのものより日本に買って帰るお土産が気になるようで、お土産屋が見えると、「行きたい、見に行きたい」と訴えていました。そろそろ日本が恋しくなってきたようです。

夕食は、北京の路地裏にある中華料理屋で頂きました。今まで食べたことがない中華料理をチョイスしていただきました。そこで生徒が「今回こんなにスムーズに中国を旅できているのも外事弁の人たちのおかげだね。外事弁の人たちがいなかったら、私達何もできないし、どこにも行けないよね。まじ、ベリーシェーシェーだ」という話をしていました。外事弁の方のこれまでのご配慮には頭が下がりますし、それに気づくことができた生徒も素敵だなと感じました。



【10月27日(日)】

北京での学習最終日、天安門広場では、10万人が整然と並ぶことができるように敷かれた石畳や、有事の際には、戦闘機の離着陸が可能な道路を歩きました。ここまで、パスポートチェックがなんと4回ありました。所属警察が違うため、このように4回のパスポートチェックと荷物検査、体の隅々まで触られ確認されるボディチェック、空港や今までの見学場所は1回でしたが、ここは4回もありました。日本の治安の良さを改めて感じました。



天安門広場には、人民大会堂、毛沢東記念館がある。天安門広場は、テレビにもよく見るため、知っている生徒が多い。天安門をくぐり、次の見学場所の故宮(紫禁城)に行きました。とにかく猛烈は人の数でした。人が多すぎて、単に人並みに流されていくだけでした。途中でなんとかお土産を買えたことが幸せでした。



昼食を食べ、天壇公園へ。天壇公園は、明の時代、皇帝が天の恵みに感謝する場所。万里の長城が中国のシンボル、天壇公園と紫禁城は北京のシンボルです。しかし、天壇公園は予約ができずに遠くから見るにとどまりました。余った時間はお土産タイムです。6日目になると、団員たちも大分自分からコミュニケーションをとるようになってきます。中国の方は英語をしゃべることができません。日本よりできないかもしれません。「互いにうまくできない」ことが逆にコミュニケーションを取りやすいのかもしれない。自分から積極的に、How much のように声をかけたり、身振り手振りでコミュニケーションをとったりするようになってきました。行きの飛行機の中では、ジュースのお代わりを進められた時に「No thank you」が言えなかった生徒たちは、今日は No または、No thank you と言えるようになっていきます。大きな進歩です。

ホテルについて 訪中振り返りの会を行いました。

振り替りの内容(中国と日本の相違点と共通点、1週間過ごした仲間に一言)

長岡…料理がおいしかった。中国の人はやさしかった。ぼったくってくる店員がいた。みんなはもうちょっと大人しいと思っていた。コーラをこぼしたとき親切にかたづけられてうれしかった。えあぼつつが 50 元でうっていた。

和田…人が優しく、中学生が困っていたら優しく話しかけてくれました。中国人は順番待ちしないで、自

分を前に出る欲がありました。最初はホーシックになりかけていたけれど、今は、もうちょっとここにいたいと思って、印象が変わりました。

坂爪…人口が多い。他の人とコミュニケーションをとろうとする人が多い。交通ルールがひどい。みんなと一緒に中国を視察していい思い出になったので、これは一生残る思い出になると思います。みんなのことを信用して中国を視察できてよかったです。

小山…前日は緊張して眠れなかったけれど、すごく楽しかった。思っていたより楽しかった。何をやるにもでかいこと。行った場所も、大きい声で話す。細かい気配りができることができるのが、日本とにている。中国がたのしかったのは、この10人だったから楽しかったんじゃないかなと思ったから、みんなに感謝している。ベリーしゅーしゅー

鈴木…楽しかった。空気が汚いと思った。何かがあるとやっぱり中国だなと思うところもありました。特に驚いたのは、教育水準が高いと思ったけれど、英語が通じないのが困った。日本人の方が片言でも通じるんじゃないかと思った。みんな優しくかった。白い目で見られるくらいの覚悟できたけれど、みんな優しくかった。おおざっぱなルールは一緒だと思った。最初と印象が変わった。もっとシーンとなると思っていたけれど、結構ワイワイした旅になった。宮尾先生と小林先生のおかげで楽しい旅になった。

1つ目は異文化は受け入れがたかったけれど、最終日にはそれがなれていて、それが当たり前になっていたことがうれしかったです。

2つ目は国際理解について学習会では何か全く分からなかったけれど、国際理解とは異文化を認め合うことやそれに慣れることが大きいなどこの中国視察を通して思いました。

高橋…みんな結構優しくかった。交通ルールが結構雑で、けっこう危ないと思った。意外とみんな中国人はみんなフレンドリーで、みんな笑顔で接してくれたりして、言葉が通じないけれど、伝わるなって思った。みんなと過ごして、最初は仲良くなれるかすごく心配で、最初の学習会とか仲良くなれるかすごく不安で帰りたいたいと思っていたけれど、今の空間がすごく居心地が良くて、今は帰りたくないと思うくらい、楽しくなりました。

諏訪…もう少し治安が悪いと思っていたけれど、飲んだくれて倒れている人がいなくて、意外と平和だった。料理は、胃もたれはしたけれど、満喫ができた。すごくクラクションを鳴らしていて、夜中でもぶーって鳴らしている。仲間と過ごして思ったことは、最初と最後で印象が違って、性格もすごく変わったな。変なところもあったけれど、普通に協力して助け合えたり、気遣ったりしていたからすごくいいなと思った。共通点は、困っている人がいたら手助けをすることです。

酒井…みんな優しいけれど、日本人よりも外国人に対して言葉が通じなくても積極的だったのが印象的だった。トイレが汚かった。和式だった。10人と過ごせて、いろいろあったけれど、いい思い出になった。会えなくなるのがさびしい。忘れないでください。相部屋の人のいびきがうるさくて、眠れませんでした。相部屋の人がまったく起きずにいたので、とってもめいわくでした。あと、ルームキーを部屋に三回も忘

れて、閉め出されて部屋に入れなくなりました。ご飯はおいしかったです。財布とスマホの入ったバッグをバスの中に置き忘れるという凡ミスを犯してしまったので気を付けようと思いました。

羽田…駅とかどこでも煙草をすっている。歩道とか赤なのに普通に車が来て、交通ルールは日本と違うと思った。学校の人とか思っていた以上に親切で、すごく助かったです。学習会の時とかはぜんぜん話さなかったけれど、中国に来てからバスの中とかで笑ったりして楽しかったです。普通に走っていた車が、ヨーロッパの車がたくさん走っていて面白かったです。

山下…みんな親切で、しゃべりかけたらみんな笑顔で返してくれるし自分から話しかけてくれて嬉しかったです。値切ってほしいといったらちゃんと値切ってくれて結構よかった。クラクションがうるさくて、寝ていても起きてしまった。通じなくても通じました。ジェスチャーとか。馬さんがいないと生きていけない。学習会の時と全然印象が違う。変わった。最初はこのメンツで全然しゃべらなかったけれど、バスの中でもずっと笑っていて楽しかったです。

最後に、今回の訪中では、中国と日本の相違点ばかりではなく、共通点を探すようにあらかじめ課題を出していましたが、生徒たちはそれぞれに感じるものがあつたようです。そして、団員と初めて会った時と今では印象が大きく違うと感じています。仲間の良さや欠点を感じ、それらを自分の中で上手に受け入れ互いを尊重することが出来ていたようです。

最初は家に帰りたかった、ホームシックにかかりそうだったけれど、もっと中国にいたい、仲間と一緒にいたいと話していました。良い思い出、そして大きく成長できた7日間となりました。



2 中国訪問で学んだこと

充実した訪中の1週間から

長野市立柳町中学校

鈴木 明日香

私は行ったことがない国へ行ってみたかったので、今回このような機会をいただけて嬉しかったです。また、ニュースを見ていたりしてあまり良いイメージがなかった中国に対して、どんな国なのかを自分の目で確かめることができた1週間となりました。

この訪中に参加していなければ絶対に得られない貴重な経験ばかりでしたが、私が特に紹介したいことは2つあります。

1つ目は、コミュニケーションの大切さについてです。旅の2日目に私達は石家庄市第28中学校の生徒の皆さんと交流をしました。バスから降りると生徒や先生方は盛大な拍手とともに私達を迎えてくださいました。私達は生徒の皆さんと一緒に美術で制作をしたり、水餃子を作ったり、体育の授業で協力して競技を行ったりしました。そんな交流を行う中でコミュニケーションを取ることとはとても大事なことだと改めて思いました。私は英語が得意ですが、英語が通じる生徒はごく僅かで、会話をするのはとても難しく感じられました。実際に私が美術の制作でペアになった生徒は英語が得意ではない生徒でした。制作の際、やりかたがわからなくなり作品を指さして「How?」と首をかしげ質問しました。すると、相手の子は手招きをして丁寧に手本を見せて教えてくれました。今まで私は”言葉が通じなくても海外の人と関われる”といったことをテレビや外国へ行った人のサイトで目にしましたが、私はそんなことは絶対はないと思いつつ渡航まで過ごしてきました。しかしこのような経験から、たとえカタコトの英語しか通じなかったとしても思いをしっかりと伝えようという気持ちがあれば相手はその気持ちを受け取ってくれたのが嬉しかったですし、国や言語を超えても思いが届けば中国の方と繋がれることがわかりました。

2つ目は国際理解についてです。

私達が中国を訪問したときには慣れないことがたくさんありました。特に印象に残ったことは、クラクション禁止マークがあるくらい道路では常にクラクションが鳴っていたり、道行く人がタバコを吸っていたり、日本では親しみのない動物の料理が円卓に並んでいたりしたことです。ですが、中国生活が半分近く経ったときにはそれが私達にとって気にならないくらい当たり前ものになっていて驚きました。私は、この長野市中学生友好訪中団の目的の一つでもある国際理解について事前学習会の段階ではよく理解できていませんでしたが、1週間を通して、国際理解とはすぐに理解することはできないものであり、日数を重ね、肌で感じ、慣れて、記憶することでようやく理解できるものだと思います。1週間という短い期間であり知らなかった中国という国でたくさんのことを団員12人と体験し学習することができてよかったです。

最後になりますが、中国でお世話になった石家庄



市外事弁公室の皆さん、1週間共に過ごした訪中団のみんな、支援してくださった長野市の皆さんには感謝しかありません。一生の思い出になりました、本当にありがとうございました。

中国の訪問を通して学んだこと

長野市立東部中学校

長岡 岳大

僕が中国を訪問して印象に残ったことは主に2つあります。

1つ目は食のの違いです。中国ではいつもたくさんの料理が出てきました。とても僕らでは食べられる量ではなく、初日で食べきろうとすることをあきらめました。のちに、「中国では残すのがルール」と知って驚きました。日本では食事を残さないように食べるのが理想です。ですが中国で残す理由を知って納得しました。中国では「お客さんにお腹いっぱい食べてほしい。」というおもてなしの気持ちが強かったです。日本と全く違うと思っていましたが、日本のおもてなしと形が違うだけでお客さんを思う気持ちは同じなのではないかなあと思いました。料理の種類に関しても「鳩のスープ」や「カエルの煮つけ」など名前を聞いただけでは遠慮したくなる料理がたくさんありましたが、食べてみると意外とおいしかったです。毎日本場の中華料理を堪能できました。

2つ目は中国の中学校を訪問した時、積極的に僕たちに接してきてくれたことです。あまり英語ができなくて翻訳機を使って話をしましたが、一緒に餃子を作ったり、授業に参加した時親切に教えてくれ、温かい心遣いに感動しました。授業にも真剣に取り組み、積極的に発言し、仲間と団結して取り組む姿が印象的でした。同じ中学生として刺激を受けました。

今回の訪問を通して、中国のスケールの大きさ、歴史の奥深さ、温かい人々の優しさに触れ、中国の良さを沢山知ることができました。それと同時に日本に届く中国の情報はとても偏っていると感じました。

引率の先生をはじめ、一緒に訪問した仲間とも仲が深まり、学びの多い日々でした。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。この経験を活かし、中国をはじめ世界の国々を学びながら、将来は世界各地へ行って情報を発信してみたいです。



中国を訪問して学んだこと

長野市立西部中学校

諏訪 伊祝

私は今回の渡航で学んできたことは中国特有の文化や風習です。

中国では食事をするときに、回転テーブルを使用したり、長い取り箸を使ってご飯を取り分けます。

ペキンダックや鳩スープ等の日本では見られない食べ物も沢山ありました。最初は少し抵抗がりましたが、どの料理も美味しく好物になったものもありました。雰囲気こそ似ているものの日本との文化の違いがはっきりと分かれている様にして感じて特徴がつかみやすかったです。また、中国には日本のゲームやアニメの文化が多く見られ、日本と中国の強い結びつきを感じました。自分の知らない文化に身をもって体験することができ、国の文化により一層興味がわきました。

石家庄市第二十八中学校では、国際感覚を意識して異国の人達と交流することで、その国の事を観察し知る事が出来ました。

今後、他の国に行くことがあれば中国で学んだ様に文化や習慣によく注目して違いを楽しんで交流していきたいと考えています。



七日間の思い出

長野市立北部中学校

酒井 樹理

私は中国での7日間で、とても貴重な経験をたくさんしました。その中でも特に心に残っているものは、

まず、第二十八中学校との交流です。一緒に中国の美術の体験をしたり、餃子を作ったり体育の授業を受けたりしました。はじめ、私は英語がそこまで喋れる方ではないため、うまくコミュニケーションがとれるか不安でした。中国の中学生に私の怪しい英語はおそらく通じていなかった

たけれど、とても明るくフレンドリーでたくさん話しかけてくれて、わからないことがあったら身ぶり手ぶりで優しく教えてくれたのがとてもうれしかったです。また、すぐに電話番号やメールアドレスを聞かれたりするのノリがよくて雰囲気はすごくいいなあと思いました。一緒に作った餃子はとてもおいしかったし、体育の授業では、日本にはない謎のアクティビティで足がつりそうになったけど、みんなと一緒に盛り上がるのができてすごく楽しかったです。また機会があったら行ってみたいと思いました。

それから、たくさん世界遺産を見学したことも心に残っています。中国と言ったらまず思い浮かべる、万里の長城や故宫博物院、頤和園などたくさん世界遺産を回りました。写真で見るとよりも実際に行った方が遥かに迫力がありました。多い日で2万歩以上歩いたのにそれでも全然回り切れないほど広くて、中国のすごさを改めて体感しました。

また、友達と一緒に石家庄市や北京でショッピングをしたのも楽しかったです。日本のキャラクターやお菓子の商品のパクリみたいなのがたくさんあって、おもしろかったです。デパートで商品を値切ったりできるのも外国ならではのなあと思いました。

私は4日目あたりに財布をなくしました。貴重品が入っていてとても焦りました。夜遅くに気づいて先生に連絡すると、石家庄市の方々が私の行動を防犯カメラで確認してくれて、幸いバスの中で発見することができました。迷惑をかけてしまって申し訳なかったけど、私のためにわざわざ探してくれたと知って、やっぱり中国の人たちは優しいなあと思いました。感謝しています。

本当にこの7日間は日本に帰ってきたくなくなるくらい充実していたなあと感じます。「中国」と聞いて、良い印象を持たない人もいるかもしれませんが、でも、中国には優しい人がたくさんいたり、世界的にも有名な歴史的建造物がたくさんあったり、他にもご飯がおいしかったりと良いところがたくさんあります。この経験を活かして、またいつか中国やほかの国に行ってみたいです。

中国を訪問して学んだこと

長野市立犀陵中学校

山下 小百合

10月22日から10月28日に渡って、中国の石家庄市と北京に一週間の訪中を行い、豊かな文化と歴史にふれる貴重な体験をさせていただきました。中国は数千年の歴史を持ち、様々な民族と文化が共存する国です。この報告書では、訪中中に体験したことや印象に残った出来事、感じた事をまとめます。

1日目は、駅で友人や家族が見送りに来てくれて、とっても嬉しかったです。私は初めの挨拶は少し緊張しましたが、担任の先生が作ってくれたクラスのみんなからの温かいメッセージが書いてある髪を作ってくれて胸を張って挨拶をすることが出来ました。それから羽田空港まで移動しました。移動中も他校の人達と沢山話すことができ、友好が深まりました。飛行機に乗り込むと、窓から見える景色がどんどん変わっていくのを見て、空を飛ぶということを実感しました。飛行中、機内食も楽しみました。普段はなかなか食べられないような料理が出てきて、海外

に行くんだなと実感しました。隣の席の人と少し話をする機会もあり、国際交流の楽しさを感じました。無事に中国の空港に到着すると、他国に来たんだとより実感しました。空港の広さや人々の賑わいに圧倒されつつも、これからの訪中がとっても楽しみでした。それから高鉄、新幹線、バス等を使いホテルへ移動しました。ホテルに着いたの頃は日本時間で2時ぐらいだったのでその日は移動した疲れもあり、その日はよく眠ることが出来ました。このように、私の中国訪問の1日目は、友人たちとの再会や初めての飛行機体験などでとても新鮮な気持ちでいっぱいでした。

2日目は、私たちの中国訪問の中でも特に印象深い日となりました。朝から訪れたのは、28中学校です。学校に到着すると、温かい拍手で迎えてくれてとても嬉しかったです。特に英語の授業では、生徒たちが積極的に参加しており、とてもすごいと思いました。授業の後、美術の時間に参加しました。生徒たちは卵を削るという独特な技法を使って作品を作っており、日本では見たことがないようなものが沢山ありました。また、蓮の花を描いていてとても美しかったです。美術の授業を通じて、文化の違いを感じることができました。昼には、中学生の皆さんと餃子作りを体験しました。生地をこねて、具を包む作業は楽しく、完成した餃子をみんなで食べると、とても美味しかったです。その後は中国の伝統的な漢民族衣装を体験しました。お店には沢山の種類の服が並んでおり選ぶのに時間がかかりました。その中でも私は紫色の服を選びました。服を着てメイクをしてもらおうと中国ならではの雰囲気を感じました。全員が服を着終えた後に外部弁公室の副主任主催による歓迎会に出席しました。最初は緊張しましたが徐々に賑やかになっていきとても楽しい食事会になりました。夜には、正定古城の夜景を視察しました。古城のライトアップされた姿はとても綺麗で、正定古城の歴史を感じました。2日目は、文化、料理、歴史を通じて中国の魅力を存分に味わうことができた一日でした。

3日目は、河北博物館を訪れました。博物館は河北省の歴史や文化を学ぶための場所で、古代の遺物や美術品が展示されています。特に印象的だったのは、中国の戦争時代の写真で、日本の戦争の風景を見ることはよくあるのですが、日本が戦争してる間中国がどのような状況下で戦争をしているのかを知る機会があまりない為とてもいい経験になりました。展示を通じて、河北省の歴史をさらに感じる事ができました。その後、正定県卓球訓練基地へと移動しました。ここでは、卓球の歴史を学ぶだけでなく、実際にプレーする機会もありました。卓球は中国の国技とも言えるスポーツで、地元の選手たちの練習を見学しながら、私たちも参加しました。初心者の方にとっては難しい部分もありましたが、一緒にプレイしていた人が丁寧に教えてくれて、楽しくプレーすることができました。午後には人民広場に移動し、友好の鐘を視察しました。この鐘は、国際交流の象徴として設置されており、訪れる人々に平和と友好のメッセージを伝えています。鐘の周りには美しい公園が広がっており、地元の人々がリラックスしている姿が印象的でした。その後、副市長の表敬訪問が行われました。副市長は私たちの訪問を歓迎してくださり、河北省の発展や文化についてお話しされました。副市長の温かい言葉に、私はこの交流の大切さを改めて感じました。最後に、副市長主催の送迎会が開かれました。地元の料理を楽しむことができました。料理はどれも美味しく、お腹いっぱいになるまで食べました。楽しい時間を過ごしながら、河北省の人々の温かさを感じることができました。この3日目の訪問を通じて、河北省の歴史、人々との交流を深めることができました。卓球を通じての体験や、副市長との会話は、私にとって貴重な思い出となりました。

4 日目は、石家荘市動物園を訪れました。この動物園は、地域の動物保護と教育に力を入れている場所で、さまざまな動物たちが自然に近い環境で飼育されていました。動物園内では、中国で最も人気のパンダやフラミンゴ、レッサーパンダを見ることができました。動物園のガイドさんからは、動物たちの保護活動や飼育方法についての説明をしてくださいました。特に、猿についてが衝撃的でした。動物園の猿にはそれぞれ位があり猿にも上下関係があることを知ってびっくりしました。石家荘市動物園の視察を終えた後、私たちは北京へ移動しました。移動中は、車窓からの風景を楽しむことができました。北京に近づくにつれて、都市の発展が感じられ、期待感が高まりました。北京に到着すると、王府井へ向かいました。王府井は北京の中心部に位置する有名なショッピングエリアだそうで、多くの観光客や地元の人々で賑わっていました。北京王府井視察王府井では、様々な店舗や屋台が立ち並び、地元の特産品やお土産を購入することができました。私も家族や友人へのお土産を買ったり食べ物を買ったりとても楽しかったです。夜ご飯では、しゃぶしゃぶを食べました。沢山の具とタレがあり沢山の味を楽しむことが出来ました。4 日目の訪問は、動物園での教育的な体験と、北京の活気ある街並みを楽しむことができた一日でした。

5 日目は、万里の長城へ向かいました。長城は中国の象徴的な建物で、世界遺産にも登録されています。バスに乗っている間、友達と長城のことを話しながら、どんな景色が広がっているのかもすごく楽しみでした。長城に到着すると、曇り空が広がっていて、少し残念でした。天気良ければ、もっと綺麗な景色が見れたかもしれません。でも、長城に登ると、その大きさに圧倒されました。石で作られた壁がずっと続いていて、凄かったです。長城を登るのは大変でしたが、友達と一緒に励まし合いながら登りました。途中で休憩を取りながら、景色を楽しむこともできました。曇っていたけれど、山が見えたり、長城が続いている様子が見えたりしてとても美しかったです。少し風が強かったけれど、気持ちよかったです。長城を登り終えた後は、頤和園に行きました。頤和園は美しい庭園で、昔の皇帝たちが休むための場所だったそうです。ここでは、たくさんの池や橋、そして古い建物がありました。特に、長い廊下が印象的でした。廊下にはたくさんの絵が描かれていて、見ているだけで楽しかったです。頤和園では、友達と一緒に写真を撮ったり、池の近くを散歩したりしました。池にはたくさんの鴨がいて、可愛かったです。5 日目は万里の長城と頤和園を訪れて、本当に楽しい一日でした。長城の壮大さや、頤和園の美しさにどれも圧倒されました。万里の長城では曇り空だったけれど、それでも素晴らしい景色を見ることができました。友達と一緒に過ごせたことも、特別な思い出になりました。

6 日目は天壇公園に行きました。天壇公園は北京の中心にある大きな公園で、古い中国の建築がたくさんありました。公園に入ると、まず目に入ったのは「天壇」と呼ばれる大きな建物です。青い屋根がとても綺麗でした。ここは昔、皇帝が天に祈りを捧げる場所だったそうです。公園の中を歩いていると、たくさんの方がいました。みんな楽しそうに散歩したり、写真を撮ったりしていました。次に、天安門広場に向かいました。広場はとても広く、周りには大きな建物がたくさんありました。広場の真ん中には国旗が掲げられていて、たくさんの観光客が写真を撮っていました。私もその中に混ざって、記念写真を撮りました。その後、故宮博物院に行きました。入り口に入ると、壮大な門があり、その先には美しい建物が広がっていました。色とりどりの装飾がほどこされた建物は、とても美しかったです。1 日かけても見終わらないほどに広く沢山の人がいました。6 日目は中国の歴史や文化に触れることができ、とても楽しかったです。

7日目は朝早くに起きるところから始まりました。最初は長いと思っていた一週間がものすごく早くすぎていくのが感じられました。北京首都国際空港まで外事弁の方々が着いてくれて嬉しかったです。しかし、飛行機を降りたあとは、もう外事弁の人がいなくて、ものすごく不安でしたが最初来た時よりも慣れができたのか、自分たちの力で日本に帰ってくる事が出来ました。日本に帰ってきて最初に感動したことは言語が読めることです。今まで何も読めず、理解することが出来なかった中で一週間生活していたので改めて文字が読めるようになると新鮮な気持ちになりました。私は今回の訪中を通して将来への視野も広がり、行く前よりも自分への自身とコミュニケーション能力が上がったと感じられる一週間になりました。今回の渡航に関わってくれた皆様本当にありがとうございました。

訪中を通して学んだこと

長野市立広徳中学校
和田 環生

私は今回、長野市中学生友好訪中団に選ばれてとても楽しみでしたが、中国にあまり良いイメージがなかったり、行く直前で事件が起きたりしていたので不安と緊張でいっぱいでした。みんなと学ぶ事前学習会で、団員のみんなと少しづつ仲良くなれましたが、学校の友達ほど打ち解けることは出来ず、心配な気持ちもありました。ですが一週間中国でいろいろな事を一緒に経験することで、自然と打ち解けあいとても楽しむことが出来ました。その中でも特に印象に残った2つのことを紹介します。

1つ目は、中国の人々がとても優しいことです。まず、石家荘市第28中学校のみなさんは私たちをとても歓迎してくれ、たくさんの体験をさせてくれました。伝統的な工芸品を作ったのですが、言葉が通じないなか一生懸命、身振り手振りを使い丁寧に教えてくれました。他にも水餃子を作ったり、一緒に体を動かしたりしましたが、全ての人がとても親切に接してくれました。また、観光をしているときに現地の通行人の方が、靴ひもがほどけていることを教えてくださったりもしました。私が以前から抱いていた中国の方々のイメージとは全く違ったことで、実際に体験してみないと本当のことはわからない、思い込みや先入観を持ちすぎないことの大切さを実感しました。

2つ目は、中国の食事です。中国では料理を全て食べることが礼儀ではなく、少し残すことで、出された料理で大変満足したという意味になるそうです。ですが少し残すなどというような量ではないほどにたくさんの料理が最初から出てきて、さらには食事の間にもどんどん料理が追加されてくるほどでした。そこでお店の方に、いつもこんなに沢山の量なのかと聞いてもらったら、私たちの年頃の中国の学生はもっとすごく食べてこれでも足りないくらいだと言われ、とても驚きました。



今回の訪中を通して、たくさんの方々と交流をしたり、学ぶことが出来ました。訪中団のみんなとも忘れられない素敵な思い出をたくさん作れました。このような機会を与えてくれた皆様、団長、副団長、訪中団のみんな、ありがとうございました！

中国を訪問した感想

長野市立篠ノ井東中学校

小山 杏奈

私は今回の訪中団で、中国のスケールの大きさと、中国人の方々の優しさを感じることができました。今回の訪中団で私が感じたこと1つ目、中国のスケールの大きさです。例えば建物や料理。世界遺産・万里の長城を始めとし、中国ではありとあらゆる物が大きかったです。万里の長城は勿論、石家市の動物園や頤和園では、普段の生活からは想像もできないくらい歩きました。訪問した中学校は私の通う中学の何倍もの大きさと人数でした。泊まったホテルも大きいし、道路も4車線ぐらいありました。国土が広いのもありますが、それにしたって大きすぎないかと思った程です。料理は、回るテーブルにのせられた沢山の数と種類の料理が印象的です。いくら大人数で分け合う形式とはいえ、あまりにも多すぎる料理を毎晩ご馳走になりました。しかしそのどれもが美味しく、中国凄いと思ったひとつです。

次は私が感じたこと2つ目、中国人の方々の優しさです。中国の方々は、フレンドリーで優しい人が多かったです。例えば、中学校訪問の話です。中国の授業や餃子作り体験のとき、私は恥ずかしがって全然話すことができなかつたにも関わらず、現地の方々は皆優しく私に接してくれました。現地のガイドの方々も、私たちが困っていたとき、すぐに手を差し伸べてくれました。ここまで優しくしてもらえたのも、客人だから、友好都市の子供だからということもあるかもしれませんが、それでも私は本当に嬉しかったです。又、とある訪中メンバーの子の靴ひもがほどけていた際、通りすがりの中国人の方が、その子の足元を指差し、靴ひもがほどけていることを教えてくれました。他にも、公園でパフォーマンスをしているおじいちゃんとも仲良くなったり、中国の人たちはとてもフレンドリーな人が多かったです。自分から積極的に人と関わるところ、凄く見習いたいです。勿論、みんながみんなこういう人というわけではありませんが、私が関わった人たちの多くがこのような優しくフレンドリーな人でした。今回、このような人たちに関わって私は幸せです。

色々書きましたが、結局一番の感想は、中国楽しかった、に尽きます。また絶対に中国に行きます。

訪中を通して学んだこと

長野市立豊野中学校

坂爪 日

私が中国を訪問して最も印象に残ったことは、日本と比べて人口が、非常に多いということでした。車道は片道四車線ある所も多く、バイク、自転車専用の道もありました。また夜になっても人の動きが活発でした。車通りが多く、公道はとても危険でしたが、人口が多いからだと思いました。

中国の料理を、食べて感じたことは、多くが「辛い」「しょっぱい」「硬い」ということです。日本食のような、出汁の旨みがなく、単調で慣れないものでした。

中国の街並みは、都心から離れた場所でも、高い建物が多い印象で、都会だと感じました。石家荘市は農業が盛んだと学びましたが、そのような光景は見るできませんでした。

世界遺産である万里の長城や頤和園の視察では、壮大さに驚き、歴史を感じることができ、思い出深い場所となりました。

世界にはもっと様々な国があり、それぞれの文化があります。日本には感じることができない、貴重で有意義な経験ができたことに感謝しています。ありがとうございました。



中国を訪問して学んだこと

長野市立鬼無里中学校

羽田 大志

僕は、ずっと日本と違う文化を見たくて海外に行きたかったので、今回の訪問をとっても楽しみにしていました。初めての海外渡航で少し不安でしたが、中国の外事弁公室の方が親身になってサポートしてくださり、安心してたくさん日本の違いと共通点を見つけることができました。

中国へ行って見て特に印象に残ったことは3つあります。

1つ目は、中国の街の活気です。中国にはバイク専用の道路があるほどバイクに乗っている人が多くて驚きました。だから、バイク専用の道路を渡るときには、バイクが来なくなったらすぐに渡らなくてははいけないので少し怖かったです。

2つ目は、中国の第28中学校の生徒との交流です。日本と同じく親切な人が多くとても歓迎し

てくださいました。第28中学校を訪問したときに言葉が通じなくても、ジェスチャーや簡単な英語でコミュニケーションを取ろうとしてくれました。また、水餃子作りで、お手本を見せてくれたり、必要な餃子の具を近くに持ってきてくれたりしました。

3つ目は中国の建物についてです。万里の長城や天安門広場などの世界遺産や動物園などに行き行って感じたことは、中国の建物の屋根は赤い塗装が塗られていることが多く、建物が全体的に大きくすごく広い敷地に作られていることです。特に動物園では園内を専用の車で移動するほど広かったです。日本とは違い土地が広い大陸ならではの特徴だと思いました。

ぼくは、今回の渡航を通して日本との相違点、共通点をたくさん知ることができ、自分の視野が広がったと思います。もっと外国の人とコミュニケーションを取れるように、共通語である英語を話せるように頑張りたいです。

たくさんの貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



訪中で感じたこと

長野市立中条中学校

高橋 和

私は今回の訪問でたくさんのことを学ぶことができました。その中で印象に残ったことが2つあります。

1つ目は中国の人たちの人柄です。中国の人たちは優しい人が多く、中国に行く前はあまりそういうイメージはなかったのととても驚きました。例えば、私がエレベーターで下の階に行けずに困っていたとき、一緒に乗っていた人が笑顔で話しかけて、助けてくれました。そのとき言葉は通じなかったけれどその人の優しさを感じました。他にも私が困っていたときにジェスチャーや、翻訳アプリなどをつかって助けてくれた人もいました。笑顔で接してもらったときはとても嬉しかったです。

2つ目は食文化です。中国には辛い食べ物が多いイメージがあり、実際に結構辛いものが多かったです。中国の人たちは辛い食べ物が、好きなのだと感じました。中学校では餃子を作らせてもらいました。中国の餃子は水餃子が一般的で、皮から手作りするそうです。私が1番びっくりしたことは料理に鳩や蛙が入っていたことです。日本では食べないものなの私は抵抗があったけど、中国では普通に食べているのはすごいと思いました。日本では食べられないものをたくさん食べられていい思い出になりました。

私はこの訪中を振り返って、中国に対するイメージが大きく変わりました。人も温かいし言葉は通じないけど理解しようとしてくれる人も多かったです。そして他にも様々なことを経験し、たくさんことを学ぶことができました。日本との違いや共通点もたくさん見つけることができました。この経験を今後活かしていきたいです。

今回、訪中団のメンバーと過ごすことができ、すごく楽しくてあっという間の1週間でした。中国での経験は一生忘れられない思い出になりました。このような機会を与えてくださった皆様、本当にありがとうございました。



長野市から贈った友好の鐘

3 あとがき

第 39 回長野市中学生友好訪中団員と関係の皆様へ

学校教育課（教育センター） 小林 由起子

中国国内での情勢不安もある中、第 39 回長野市中学生友好訪中団が、無事に全ての日程を終了しました。宮尾団長のリーダーシップの元、参加された中学生全員が、一週間寝食を共にすることで、団結力のある訪中団として貴重な経験ができたと思います。

石家庄市と北京市での滞在は、さまざまな人との出会い、価値観が広がる出来事の連続でした。そして、団員の皆さんの前向きな姿勢がさまざまな場面で感じられた 7 日間でした。

石家庄市立第 28 中学校の交流では、卵の殻やうちわを使った美術作品づくり、餃子づくり、竜を模した運動用具を使った競走など、中国ならではの文化を体験できる機会をたくさんご準備いただきました。団員の皆さんにとっても初めて体験することが多く、第 28 中学生のお手本をまねて取り組んでみたり、簡単な英語や身振り手振りを使って意思疎通をとったりする姿がありました。また、事前学習会での練習を経て発表に臨んだ「地球星歌」の合唱は、一人一人の堂々とした歌声と、歌詞やメロディーに込められた思いが伝わってくる、とても素晴らしい合唱でした。

石家庄市の河北省博物院では、学芸員の方の説明と、通訳してくださる担当者の方の話を真剣に聴き、メモを細かく取ったり、貴重な文化財の写真をさまざまな角度から撮ったりする姿がありました。実際に見て、聴いて、感じたことを、自らの知識や経験に生かそうとする姿勢とともに、友だち、家族、学校の先生にも訪中団での学びを伝えたいという思いが感じられました。滞在中は、石家庄動物園、万里の長城、天安門広場、故宫博物院など、さまざまな場所を視察しましたが、どの場所でも、中国の歴史や文化を積極的に学ぼうとする姿、写真撮影やお土産品選びの姿がとても積極的でした。

飛行機やバス、徒歩での移動では、団員同士の会話、担当者の方との会話も弾み、終始明るく和やかな雰囲気でした。団員の皆さんの、初めて出会った仲間同士、相手同士であっても、まずは相手のことを知ろうとする姿勢、相手のことを受け入れようとする姿勢が、温かな雰囲気につながっていたのではないかと感じます。7 日間の滞在中には、文化や環境、考え方の違い等に戸惑う場面もあったかと思いますが、目の前のことを柔軟に受け止め、自分から積極的に関わっていかうとする姿は、どの団員にも見受けられた、とても素晴らしい姿です。今回の訪中団での経験が、皆さんの今後の生活や将来に向かう道のりの中で、どのような形で生かされていくのかがとても楽しみです。

今回参加された皆さんの経験が、残念ながら今回参加できなかった皆さんをはじめ、多くの方

に伝わることで、広く国際理解教育が進んでいくことを願っています。また、参加された皆さんの将来に大きな期待を抱くと共に、大きく成長して各方面で活躍している姿を見ることができる日を楽しみにしています。そして、出来れば将来、長野市の国際交流の発展に力を貸してくれることを願っています。

結びに、今回の派遣に際しましては、ビザ取得等の多くの事務手続きもあり、保護者の皆さまをはじめ、多くの皆さまに多大なるご協力をいただきました。第 39 回長野市中学生友好訪中団の成功のためにご尽力いただきました関係の皆様へ、心からお礼を申し上げ、あとがきといたします。